

## 問題

### 《元と清の中国統治》

ドイツ出身の中国研究者ヴィットフォーゲルは、<sup>★1</sup>北方民族の王朝である遼・金・元・清に関して、これらの王朝は、中国本土に支配を及ぼしたのちも、漢民族の社会に同化することなく独自の文化や社会制度を保持したとし、“征服王朝”という概念を提唱した。こうした“征服王朝”のうち中国全土を支配した元と清の中国統治政策について、<sup>★2</sup>両者を比較しつつ、400字以内で具体的に説明せよ。(30点)

### ポイント

漢民族が圧倒的多数を占める中国において、北方民族が建てた元と清の中国統治政策を比較し、両者が漢民族に対して採った政策の違いを把握する。

### 解答

モンゴル人が建てた元は、宋の伝統的な官僚制度を継承・維持する一方で、政治・軍事の要職をモンゴル人で占め、モンゴル語を公用語とした。また、色目人と呼ばれる西アジア・中央アジア出身の人々を財務官僚として重用し、武人や実務官僚を重視した。儒学を軽視して科挙を一時廃止するなどしたため、漢民族の知識人層が活躍する機会は少なく、かつて金・南宋の支配下にあった漢人・南人と呼ばれる人々は被支配層と位置付けられた。これに対し、ツングース系の女真が建てた清は、明の諸制度を継承・維持し、儒学を重視して科挙を整備したほか、官吏登用に際して満漢併用制を採って漢民族も要職に任用した。中国文化の保護者として伝統的学問の振興にも努め、『康熙字典』や『四庫全書』などの大規模な編纂事業を行った。一方で、清は漢民族に対して女真の風俗である辮髪を強制し、文字の獄や禁書などの反清的思想の弾圧や言論統制を行うなど、威圧策も実施した。(400字)

### 解法

#### 思考のプロセス

##### 設問要求の整理 “征服王朝” という視点で中国統治政策を捉える

★1にあるように、設問文では元と清が北方民族による“征服王朝”であることに触れた上で、元と清の中国統治政策を問うている。すなわち、元と清の中国統治政策の中には様々な要素が含まれているが、その中でも、北方民族がどのようにして大多数の漢民族を統治・支配したのかという視点での解答が求められている。

また、中国王朝の統治政策の説明においては、前の王朝の制度を継承したのか、新たな制度を確立したのかという視点も必要である。とくに“征服王朝”においては、前の漢民族王朝の制度を継承したのか否かが、上で述べた「北方民族がどのようにして漢民族を統治・支配したのか」という視点とも大きく関係してくる。

以上を踏まえて、まずは元と清の中国統治政策を列挙し、その上で★2に「両者を比較しつつ」とあるので、類似している点、異なる点を整理する。但し、元と清は“征服王朝”という前提が同一であることを踏まえると、両者の比較としては類似点よりも異なる点を優先して取り上げる必要があるだろう。

## 解答の組立て

解答の主軸となる要素は以下の通りである。

### <元の中国統治政策>

- 宋の伝統的な官僚制度を継承した
- 政治・軍事の要職をモンゴル人で占めた
- 色目人を重用した
- 儒学を軽視した
- 漢人・南人は被支配層とされた

### <清の中国統治政策>

- 明の諸制度を継承・維持した
- 儒学を重視して科挙を整備した
- 満漢併用制を採って漢民族も要職に任用した
- 大規模な編纂事業を行った
- 文字の獄といった思想弾圧を行うなど、威圧策も実施した

元と清について、両者の中国統治政策における漢民族に対する姿勢の違いが伝わるようにまとめることが大切である。その際には具体例を挙げてよりわかりやすくなるように説明したい。また、問題文では元と清が北方民族による王朝であることしか触れられていないので、統治政策の説明の中で、元がモンゴル人による王朝であること、清が女真（満州族）による王朝であることなど、基本情報を盛り込むことも忘れないようにしたい。

## 解 説

### ■ 元の中国支配

モンゴル帝国（大モンゴル国）第5代皇帝のフビライ=ハン（位 1260～94）は、自分の勢力が強い東方に支配の中心を移し、大都（現在の北京）を都と定め、1271年に国号を元と改称した。元は、最高行政機関の中書省、軍政を担当する枢密院、監察機関である御史台を置くなど、宋代の伝統的な官僚制度をほぼ踏襲した。地方統治に関しては、行中書省（行省）と呼ばれる地方統治機関の下で、州県制に基づく統治を行った。

元はモンゴル語を公用語とし、中国を統治するに当たってモンゴル人を優遇した。政治・軍事の中枢を担った高級官僚には、主にモンゴル人を任命したとされる。モンゴル人に次いで、色目人と総称される西アジア・中央アジア出身者が財務官僚として重用された。元では中国の伝統的な文化はさほど重視されず、儒学は軽視され、科挙も一旦は廃止された。このため、かつて金の支配下にあった華北の人々（漢人）や、かつ

#### ◎ここもチェック

行政実務を担当する六部は、唐の制度では尚書省の管轄下にあったが、元では中書省の管轄下に置かれた。

て南宋の支配下にあった江南の人々（**南人**）のうち、宋代に支配層を形成した士大夫が政治的に活躍する機会は少なかった。

元は**駅伝制**（**ジャムチ**）によって交通網を整備したほか、大運河を修築して交易の振興に努めたことから、流通が活発化した。都市の商工業が発展する中で発行された**交鈔**と呼ばれる紙幣は、銀とともに広く流通した。

また、モンゴル人は支配下に置いた地域については徴税と治安維持を重視し、社会・文化にはほとんど干渉しなかったため、都市の庶民文化が宋代に引き続き発展した。なかでも**元曲**（雑劇）と呼ばれる古典演劇の戯曲の発達は著しく、『西廂記』『琵琶記』などが著された。民間での講談も盛んであり、『水滸伝』『西遊記』『三国志演義』などの原型が作られた。

元はユーラシアの広大な領域を支配下に置いたが、各地に相次いで遠征を行ったことにより、多額の軍費を費やした。また、チベット仏教を保護して多額の寄進を行ったほか、交鈔の乱発によって経済が混乱したことなどもあって、元は1368年に滅亡した。

#### ▼元代の文化

##### 【特色】

東西文化の交流  
中国の伝統文化の軽視  
庶民文化の発達

##### 【文字】

モンゴル文字・パスパ文字

##### 【文芸】

▷元曲（雑劇）…宋代に始まり、元代に完成した古典演劇  
『西廂記』（王実甫）  
『漢宮秋』（馬致遠）  
『琵琶記』（高則誠）

##### 【書道】

趙孟頫

##### 【暦】

授時暦（郭守敬）

#### ■清の中国支配

**清**は、ツングース系民族である女真（満州族）の首長ヌルハチ（太祖：位1616～26）が、1616年に中国東北地方に建てた王朝である。清は、1644年に李自成の乱によって明が滅亡したのを機に北京に入り、その後中国本土のほぼ全域に支配を及ぼしていった。

清は、中国統治に当たって、明の正統な後継者であることを示すために官制・科挙などについては**ほぼ明の制度を踏襲した**。また、中国の伝統的な学問を保護して**儒学を振興した**。そして、中央の重要官職の定員

を偶数とし、満州族と漢民族を同数起用する**満漢併用制**（満漢偶数官制）を導入し、漢民族にも高級官僚就任への道を開いた。さらに、『**康熙字典**』『**古今圖書集成**』『**四庫全書**』などの**大規模な編纂事業**を行って古い書籍の保存・伝承に努めるとともに、学者を優遇した。

こうした漢民族を取り込む懐柔策の一方で、清は支配者として、漢民族に対する威圧的な統治政策も断行し、満州族の伝統的な風習である**辮髪**を漢民族にも強制した。また、清の支配に反抗的な思想・言論を**文字の獄**や**禁書**で厳しく弾圧した。このため、明代末期に経世致用を説く実用の学として盛んになった**考証学**は、清代に入ると次第に性格を変え、古典の正確な編集に力点を置く実証主義的な学問に転じていった。

こうした統治政策を背景に、清は、20世紀初頭に至るまでの長い期間にわたって、中国を支配した。

#### ▼清朝の統治政策

##### 《懐柔策》

- 科挙の実施
- 満漢併用制の採用
- 大編纂事業

##### 《威圧策》

- 辮髪の強制
- 文字の獄⇒反清思想弾圧

#### ◀ **ここもチェック**

『康熙字典』『古今圖書集成』は**康熙帝**の、『四庫全書』は**乾隆帝**の命令で編纂された。